最優秀賞
独立行政法人
国際協力機構
理事長賞

# 行動を起こす

〔福岡県〕　学校法人明治学園明治学園中学校　3年　**ファウラー　姫瑠**

SDGsの目標十二「つくる責任、つかう責任」は、私達にとって非常に身近な課題であると私は考える。おそらく、消費期限、賞味期限を過ぎた食品や食べ残しなどを捨てた経験のある人が大半だと思うからだ。このような食品ロスは、私達一人一人が自分事と捉え、向き合っていかなければならない課題だと私は思う。

学校の授業で、目標十二について具体的な解決策を考える機会があったため、私はこの夏休みに、「冷蔵庫内のすべての食品の消費期限、賞味期限を確認し、期限が近いものを書き出して冷蔵庫に貼る」という取り組みの実施によって、家庭内での食品ロスの削減を図った。

実施前の一週間と実施後の一週間の食品廃棄量を計測したところ、実施前は合計約六〇〇グラムだったのに対し、実施後はゼロだった。これによって、私が行った取り組みは、効果的であると分かった。

この取り組みをやってみて、私が感じたことは二つある。

一つ目は、小さなことでも実行してみて、身近なところから改善していくことが重要だということだ。一週間での食品ロスが、実施後は実施前より六〇〇グラム近く減ったことから計算すると、一年間継続すれば約三〇キログラムの食品ロス削減ができるという結果となる。もし、この取り組みを社会全体に拡められれば、かなりの量の食品ロスを減らし、環境への負荷や資源の無駄遣いを減らすことができる。簡単なことでも実行し、それを継続して、周りに拡めていくことで、世界の現状を改善していきたいと思った。

二つ目は、家庭内での食品ロス解決においても、「見える化」が大事であるということだ。消費期限、賞味期限を書き出すようになる以前は、消費期限、賞味期限切れが原因で捨てることになる食品が多くあったが、冷蔵庫の中の早く食べなければならない食品が一目で分かるようにすると、食品ロスが減り、「食べ物を捨てないようにしよう」と意識することも増えた。そのため、分かりやすく整理し、工夫を凝らすことが、課題を解決していく時に非常に大切だと気づいた。

私は、実際に行動を起こしたことで、SDGsの目標を、自分に深く関係していることだと捉え、意識しながら生活することができるようになった。世界が抱えている課題は、一人だけの力で解決することは決してできないので、一人一人が課題と向き合い、行動に変え、社会全体で取り組んでいくことが必要になる。だからこそ私は、積極的に問題を探して向き合い、周りに協力を求めることで、解決へ向けて努力していきたいと思う。